

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として重要事項説明書に明記してある。 “個人の尊厳が保たれ、地域の中で生涯その人らしい生活を送れるよう支援します。また、その家族も安心して日常生活や社会活動に従事できるように支援します”	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の基本理念を掲げ管理者、職員はその理念を共有し理念の実践に向け日々取り組んでいる	○ 理念を共有するべく会議や勉強会においてもその都度理念の確認を行いその理念に基づく介護の実践に取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書に基本理念を明示し、利用者及び家族に説明し同意を得ている。また運営推進会議において地域の方と話しあう機会を持ち、理解してもらえるよう努めている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は近隣の方と出会うと挨拶を交わすよう努めている。クリスマス会に地域の方を招待したり敬老の日のお祝い品を配ったりして交流を図っている。前面の家の子供たちとは顔をあわせる度に声を掛け合っている	○ 日常的に行き来できる機会を増やしたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	教会の日曜礼拝と月一回のふれあい喫茶に参加している。教会にはもう行かないと言われる利用者もいて以前よりは回数が減っている。教会には時おりお花を届けてもらったり、バザーの商品を届けてもらったりすることもあり、交流が続いている	○ 夏祭りなど地域の行事や掃除などの活動にも積極的に参加していきたい

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	そのような取り組みは出来ていない	○	具体的に地域の高齢者の方等に役立つことがあるのか話し合い、あれば積極的に取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員が共同で評価を行い、第三者評価を実施する意義を理解している。サービスの現状を分析して改善すべき点を発見し質を高める契機とし利用者にとって望ましいサービスが提供できるよう努めたい	○	自己評価により今後取り組むべき課題を職員一同が認識し、第三者評価の結果を活かして改善に向け取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者、利用者様家族の出席を仰ぎサービスの実際や評価への取り組み状況について説明し、ご家族様からは利用者様への対応に関する要望を聞かせていただきサービスの向上に努めている	○	運営推進会議の参加を利用者家族様についても幅広く要請したい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には常時包括支援センターの職員に参加してもらっているし、ふれあい喫茶で出会ったり顔見知りではあるけれどもそれ以外に行き来する機会はない		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の中には個人的に介護支援専門員の受験に当たって勉強をし知識を多少は持っているものはいりますが知識を共有したり活用したりするように支援できていない	○	管理者を中心に職員がそれらについて学ぶ機会をもち話し合い知識を共有し活用できるよう支援したい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者を講師として勉強会を行い職員全員が虐待防止の意識を共有し事業所内での虐待防止の徹底に努めている		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族や身元引受人に対しては入所時に重要事項説明書を用い十分な説明を行いまた質問にも答えて理解・納得を図ったうえで契約を結んでいる。書類には確認のため署名捺印をもらっている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えには耳を傾け、希望に添えるよう努めている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にめぐみの丘通信を送付し行事の後の写真を添えてホームでの暮らしぶりや健康状態、職員の異動、催しの予定等の報告をしている。また個別に必要な時には電話連絡をしている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見、不満、苦情等には直接面会時に運営者、管理者、職員が対応して聞かせていただいたり、顧客情報受付表や意見箱を置き意見や苦情を受け付けている。また、手紙やメールによることもあり、その都度速やかに反映させるよう努めている。職員の会議に家族様が参加されるときもある	○	家族様のかかわりが薄い方については、ご意見を伺うことが出来ていない
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり、月に一回の全体会議を設け原則全員の職員が参加しその場で意見の交換をし管理者は提案を聞き運営に反映させるよう運営者にも伝えるようにしている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月単位の勤務表において勤務の調整が出来るよう努めている。また、利用者の急変時には緊急マニュアルに基づき職員を確保し柔軟な対応が出来るよう体制を整えている	○	緊急時の対応は近隣居住の職員また管理者が当たっているが不在の時など不安がある。職員の数にもう少し余裕があれば対応しやすいと思う

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力無くし、なるべく近隣居住の職員を採用するようにしている。管理者や常勤職員、またパート職員も勤続の長いものが多く馴染みの関係が作れている。職員は会議等で意見交換を図り孤立することなくまた、離職を避けるよう努めている。職員の異動や退職した場合には便りで家族様に報告している		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、介護支援専門員は研修等開催の案内が事業所に送付され該当者は運営者の指示で講習を受けている。他の職員は自主的に資格取得のために勉強しているがそのための出勤調整など便宜を図っている	○	外部で開催される講習を受ける機会を設けたり、内部では勉強会を開いて、職員全体の介護力を高める必要がある
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回開かれる西区のグループホーム連絡協議会に出来るだけ参加して情報交換と交流を図っている	○	地域の同業者との交流を図りサービスの向上につなげていきたい。運営推進会議に知見者としての参加を要請したいと思っている
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員は会社に対する要望があれば会議において運営者に対してすすんで話すことが出来るし運営者は出来るだけ職員の意向に沿えるよう努力している。また職員間の親睦や交流の機会を設け、ストレスを溜め込まないように努力している		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は個々の職員の入社時の面接を行い、勤務の状態についても管理者から報告がなされており、十分把握しており、適切に評価するよう努めている		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みの時点で家族様から困りごとほか話をうかがっており、その後本人様の訪問を受け信頼関係を築き納得の上入所していただいている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の相談を受けた時点で、管理者(介護支援専門員兼務)は家族様から詳しく入所を必要としている状況を聞き取ることになっている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所を希望されている方であっても施設のハード面においてどうしても対応出来かねると判断した場合はその旨伝えて、他の施設、他のサービスを利用してもらえるようお願いしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時の不安や混乱はあるが、家族と一緒に過したり共に食事をしてもらうなど徐々にホームに馴染んでいただけるようにしている。入所後しばらくはご家族様に頻りに訪問していただけるようお願いしている。利用者様とご家族様がいつでも連絡がとれるよう支援している	○	入所前の家庭訪問はしていないが出来れば家庭訪問をし、本人と家族に面談することで入所予定者の状況をより正確に把握したいと思っている
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とは出来るだけ一緒に過ごす時間を持ち利用者の気持ちに沿えるよう支援している。家事や調理を一緒に行っており利用者から教えてもらったり手助けしてもらう場面もある。そのような支えあう関係が築けるよう努力している		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご家族とも利用者を共に支える関係でありたいと連携を蜜に取るよう務めている。誕生会や行事には参加を呼びかけ共にくつろぎ交流を深めている	○	訪問等も少なく、関係が希薄な家族様にはお便りで状況を知らせるなどして意識を持っていただけるよう支援している
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者とそのご家族との関係の理解に努めている。また良い関係が続けられるよう支援している	○	長年の修復出来かねる関係をどうすることも出来ず見ている場合があるが何らかのきっかけでよい関係を築いてもらえないものかと願っている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの物品を居室に揃えたり、会話の中で馴染みのある言葉(出身地の地名とか両親の名前とか旧姓とか)を織り交ぜ利用者の古い記憶をよみがえらせたり気持ちを和ませたりするよう支援している	○	御家族様や知り合いの方にも何時でも立ち寄っていただけるような雰囲気を作りたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士が良い関係を保ち助け合ったり支えあったりしている時はそっと見守り、悪い時にはその場を円満に取り持つよう間に入り修復に努める		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が長期に入院し、ホームを退所扱いとなっても、その後の受け入れ先をさがすなど良好な関係を続け支援している。住所として残してある場合もあり荷物や郵便物を保管したりすることもある		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様から情報を集めたりご本人との会話の中でその方のホームに対する思いや希望などを知り得ることが出来る	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで御家族様からお聞きしたり日々の生活の中でご本人の口から語られることにより把握することが出来る	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活をしていく中でその方の現状は、ケース記録に記入されその記録を元にケアカンファレンスを開き把握した情報は職員間で共有するよう努めている	
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議、随時のミーティング、ケアカンファレンス等開き関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデア、家族様の意向をも反映させた介護計画を作成している	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の変更申請をするなど本人の状況の変化にあわせて適宜計画の見直しが必要となり、現状に即した新たな計画を作成している	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとのケース記録に日々の状態や特記事項を記録し、またそれ以外にも申し送りノートに必要な情報を書きこみその情報を共有している。共有した情報を実践に活かしながら介護計画の見直しを実施している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様の状況にあわせて緊急時または、日常的な健康管理を国広医院の往診により柔軟に支援している。診療時間外でも随時電話による相談を受け付けてもらっている。歯科医療機関の往診も依頼している		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のボランティアによる音楽療法、教会、警察、消防署による消火避難訓練の実施、トライアルウィークにおける中学生の受け入れ等地域とのかかわりの中で協力しながら支援している		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の地域、中央区や北区の在宅福祉センターのケアマネとの交流があり入所に関する問い合わせがある。利用者様が特養や老健への入所を希望された折の問い合わせ手続きなどの支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席してもらい親密な関係にある	○	ホームの職員を対象に介護技術の向上のための研修をするに当たり講師をお願いしてみようと思っている

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間依頼できるかかりつけ医がおり、ホームとは長年にわたる信頼関係を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	広野高原病院の神経内科に定期的に受診している		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は夜勤者として准看護師を採用している。正看護師ではないが知識も豊富で利用者のことを良く知っているので何かと相談することが出来る		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は面会をこまめに本人の状況を正確に把握するよう努めている。なお退院にあたっては福祉関係者や病院の相談員とカンファレンスを行い情報交換に応じている。そして医療機関と連携のうえで、退院後の適切な受け入れ先をさがすよう支援している		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応や終末期のあり方についてはどこまでホームで対応できるか家族、福祉関係者、医療機関とは話し合いを繰り返し利用者本人にとってより良い環境を見つけるべく運営者を中心に方針を決定している		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化し入院するまでかかりつけ医との連携を図りホームでの対応の見極めはどこまで出来るかは掛かりつけ医のアドバイスを受けながらそれに従っている。急変時には掛かりつけ医の指示により救急車を呼び病院に搬送している		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が他の居所に移転するときは、移転先の相談員等ケア関係者の面接を家族関係者と共に受け情報の交換に努めている。情報は介護サマリーとして書面でも提供し、その後随時電話による問い合わせにも応じ、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の呼びかけにはその人にあった介助を、失禁時にはプライドを傷つけない言葉掛け、対応に心がけている。入浴時には異性に対する羞恥心に配慮した対応をし、個人情報の取り扱いにはイニシャルを利用して個人の尊厳に配慮した記録を残している	○	介護する側の声掛けや対応についても全体会議で話し合い職員間の意思統一を図る必要がある
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の思いを表しやすい雰囲気作りを心がけ、意思表示をしたり本音が出せるよう支援している。どうしたいか、ふれあい喫茶に行くのにどうされますかといった問いかけをし行くか行かないかを自分で決定するよう支援している		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の一連の流れの中でその人のペースにあった支援を心がけている。食事、排泄、入浴、就寝等の場面で拒否があったら無理強いしない。声掛けを何度かするうちに本人が納得して応じられるまで待ち、本人にとって心穏やかな生活が実現できるよう支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好きな服を身に着け、買物と一緒に行けば好きな衣類を選んで購入しおしゃれには気を配っている。何か行事がある時には女性は薄化粧を施し、みながそれを楽しみにしている。家族さんと美容院に行ったり、職員がカラーにお連れしたり、他は定期的に出張美容を利用している		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食材切りや盛り付け、配膳等もお願いしている。食事は職員と共に隣り合っ楽しんでいただき、また食器洗いや後片付けも共同で行っている。声掛けはするが利用者様の自主性に任せていて無理強いはしていない。配膳と食材切りは分擔があるようだ		
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコは控えてもらっている。おやつは一緒に買物に行き好きなものを選んでいただいている。アイスクリームの好きな方はアイスを買ってくる		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人ごと排泄のパターンを把握し、自然な声掛けにより排泄を促すことを心がけている。失敗をしていることに気付いておられない方には失敗による自信喪失を防ぐよう支援している。排泄を促しても出ない場合はしばらく時間をあけて再び試みるようにしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間帯は設定しているが、入浴の順番等はその日の状況で入れそうな方からとなる。男性は女性の後からであったり、皮膚病の薬を塗っている方は後からとかは納得して待っていただいている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、生活のリズムを作るよう心がけている。その中で気持ちよく休息して頂く、眠れるように支援している。居間のソファで居眠りをしていたり、部屋でゆっくり休んでもらった方が良い場合もあるし、その時の状況により判断して支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じた手伝い(掃除・洗濯・調理・後片付けなど)をお願いしているが、自主性に任せ決して無理強いはしていない。日課として張りのある生活の一部となっている。日課の中にカラオケや体操を取り入れ、個人的には将棋を楽しむ方もいる。外出や誕生会などの行事で気晴らしの支援をしている		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中でお金を所持し、使える方がいたが、1人だけ特別扱いすると他の方が不満をもらし、利用者間での諍いが発生する状況が見られたため家族とも相談のうえお金を与えないようお願いした。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物に行くときに利用者に声掛けをして誘い一緒に行くことがあるが車を利用している。交通量が多く高台でもありスーパーまでの距離があり徒歩では出かけられない。日常的には外出支援が出来ていない。月に数回の教会への礼拝参加、月に一回のふれあい喫茶への参加をしている	○	近所の公園まででも短時間の日課として散歩の時間を組み入れたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回個別外出の機会を作り食事や温泉に入ったりしている。お花見や行楽には家族様もお誘いし利用者は全員参加して出かけている。職員も総出で介助にあたっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への連絡は利用者様の依頼があれば希望に応じて出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や知り合いの方にはいつでも気軽に訪問していただき、居心地良く過ごしていただけるよう支援している。食事をしていただいたり、お茶を飲んだりカラオケをして楽しんでいただけるよう支援している	○	御家族の方の中には定期的にこられる方もあれば受診を付き添われるだけの方もおられる。ホーム内での行事にお誘いするなどして交流を深めたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者を講師にして勉強会を開催し、原則として身体拘束はしないケアに取り組んでいる		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室には利用者の希望で自らが施錠しており、その利用者が居室を出られる時は鍵を掛けられる方も、開けたままの方もいる。玄関には施錠はしておらず利用者は庭先を自由に移動することが出来る。門扉は外の交通量が激しく安全のため施錠している。	○	居室には鍵を掛けないケアが理想ではあるが利用者が不安や恐怖感をもっているため安心のためにやむを得ず施錠している。施錠を最小限におさえ鍵を掛けないケアの実現に取り組みたい
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の居場所や動向に絶えず気を配り把握するよう努めている。利用者が、自分の居室、居間や台所、廊下階段等どこでも自由に移動されることを制限せず、転倒などの危険性はあるが常に注意を払っている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入所時に点検しており、危険なものマッチやライターなどを見つけた場合は取り除くようにしている。取り込み行為があるのでその方の居室の点検は日々行い見つけた場合には本人に気付かれないように元に戻しておく		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	敷居などの段差をなくし、誤嚥を防ぐようトロミ食や刻み食を提供するなど各利用者の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。投薬には注意を払い、飲めたかどうかの確認をし、誤薬や飲み忘れの無いよう取り組んでいる		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や心肺蘇生法の講習を以前に受けたが新しい職員は受けてないし、実践には活用できていない	○	定期的にもた全職員が訓練を受けれるようにしたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に備えて定期的に消火訓練や避難訓練は行っている。夜間の災害に対しては地域の方々の協力が必要なので、協力が得られるよう日々働きかける必要がある	○	地域交流を密にしてお互いに助け合える関係を築いていきたい

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化に応じて、御家族とは蜜に連絡を取り、説明をしている。また余計な心配を掛けないように冷静に話し合い状況を判断できるよう支援している。ホームでの生活を大切に、出来る限りのケアをするよう努めている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から掛かりつけ医の往診による健康管理が出来ているが、体調の変化や異常に気付いた時は早急に掛かりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。申し送りによる情報の共有をし、対応に結び付けている		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書やお薬手帳などをもとに利用者1人ひとりの服薬の状況を把握しており薬の種類、用量等間違いの無いよう確認して薬箱にセットしている。処方どおりの服薬を支援し、また服薬による症状の変化を観察し医師に報告するよう努めている		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各利用者の日々の排便の状況を把握しており、便秘を予防するためヨーグルトや野菜を多く摂取するよう工夫し、また排便の兆候を見逃さずトイレへ誘導するよう支援している		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はそれぞれの利用者の口腔の状況にあわせて歯磨きや義歯の洗浄等、口腔内の清潔保持を支援している		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量、水分摂取量をチェック表に記入し、必要量を確保できるよう努めている。食べる量や栄養バランスを確保するよう献立を立てているが、摂取量が足りない時は形状を変えて飲み込みやすくするなど工夫している		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作り予防や対応に取り決めがある。インフルエンザの予防注射を職員、利用者全員が受けている。流行の恐れがあるなどの情報を入手し、感染を防ぐための対策を講じている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や食器などは熱湯消毒や除菌をし、冷蔵庫や冷凍庫は庫内の温度チェックをして食品の安全な使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはプランターを置き、年中季節の花を絶やさないうえ気を配っている。家庭的な雰囲気でご家族様や近隣の方にも気軽に出入りしていただけるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて暮らせる空間を作り環境を整えるよう配慮している。食堂や居間は採光を広く取り入れ、風通しも良く、外を見れば山の緑が気持ちよく季節を感じる事が出来る。台所からは調理の匂いがしてくるので生活感が感じられ、居心地良く過ごせている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチがあり、座って景色を眺めたり、玄関ホールにソファを置き1人でもまた他の人と語らったりも出来る。テラスにもテーブルと椅子を置き、お茶会をすることもある。一人ひとりが思い思いに好きなように過ごせる空間がある		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にベッドやたんすなど使い慣れた家具や備品を持ち込んでいただき、写真や趣味のものを飾ったりして個人の部屋として居心地良く過ごせるよう配慮している	○	部屋は家族や職員がこまめに片付けておきたい
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	尿臭やこもったようなにおいは十分な換気に努め、消臭剤も利用する。冷暖房の温度は利用者の体調や好みにあわせこまめに調節する。就寝時、入室前に適温にしておき、就寝後は温度調節して空調がききすぎないよう気をつける		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床の段差を無くし、引き戸への改修を施し、手摺りを設置するなど利用者の身体機能の低下にあわせ安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋には名前のプレートを置き、トイレの場所は分かりやすく張り紙をして示したり、わからない時は職員が利用者と共にさがしたり誘導したりして混乱や失敗に陥らないよう配慮している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスでお茶を飲んだり、玄関先のいすに腰掛けてくつろいだり、庭を自由に行き来している		

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

手作りの料理で家庭的な雰囲気を味わい、身近な自然環境に親しみ、のんびりと過ごしていただきたい。御家族、利用者様職員がそろって出かける機会をもち楽しみを共有する